

1971年8月7日 第3種郵便物認可（毎月6回 1の日・6の日発行）

2005年9月27日発行 SSKA 増刊通巻第5335号

SSKA

ああるぴい

R P 三重支部会報第9号

—◇ はじめに ◇—

今年の6月の定期総会と医療講演会は設立してから10回目となりました。

思えば平成8年10月30日にスタートしてから、もうこんなになったかと胸にじんとしてくるものがあります。

設立当初は仲間作りのために、いろいろなことでマスコミに取り上げていただきましたし、補助金をいただきたいので、行政にも何度となく足を運びました。

それに設立当初の役員さんにはいろいろなことを犠牲的精神でがんばっていただきましたので、ここにめでたく10歳になることができました。

今年の医療講演会では大阪大学の不二門先生に「間近になった人工網膜」でお話をしていただきました。

もう人工網膜も研究が進み、実際のものになりつつあることが、講演会ではよく理解ができました。

—◇ もくじ ◇—

第10回総会の報告

創立10周年 ニュージーランド親善交流旅行日誌

ニュージーランドで見つけた宝物

ニュージーランドへの旅

JRPS 三重支部との出逢い

点字と出会って

JRPS 会員になって10年

秋の交流会のお知らせ

宮本 忠

岡山 留美子

辻本 和仁

桜井 将人

森田 君子

小川 明美

第10回R P 三重総会議案書

1. 平成16年度事業報告

下記の行事を主催または共催し参加しました。

日付	用件	場所	参加人数 (会員)	付き添い 等
4月29日	三難連の役員会	男女共同参画センター	支部長	1名
5月30日	難病支援センターについての講演会	津県庁舎	支部長	
5月30日	難病支援センター設立検討委員会	津県庁舎	支部長	
6月5日	JRPSの代議員会	広島	支部長	
6月6日	全国大会	広島	支部長	
6月9日	中日新聞より激励金の受賞	中日新聞津支局	副支部長	1名
6月11日	難病支援センター設立検討委員会	津県庁舎	支部長	1名
6月27日	定期総会と医療講演会	松阪市福社会館	68名	
7月1日	難病支援センターの先進地視察	大阪、神戸	支部長	1名
7月17日	三難連総会	男女共同参画センター	5名	2名
7月17日	難病支援センター設立検討委員会	男女共同参画センター	支部長	1名
7月27日	三難連役員会	津県庁舎	支部長	1名
8月7日	難病支援センター設立検討委員会	県民サービスセンター	支部長	1名
8月30日	難病支援センターのことで 県会議員との懇談	県議会事務局	支部長	
9月10日	難病支援センター設立検討委員会	津県庁舎	支部長	1名
10月15日	難病支援センター設立検討委員会	津県庁舎	支部長	1名
11月7日	歩行訓練	男女共同参画センター	10名	4名
11月22日	患者交流会	鈴鹿保健所	2名	2名
11月23日	三難連役員会	男女共同参画センター	支部長	1名
12月1日	難病支援センター設立検討委員会	津県庁舎	支部長	1名
12月4,5日	東海地区リーダー講習会	羽島市	3名	1名
1月30日	新春交流会	四日市	37名	
1月31日	難病支援センター設立検討委員会	津県庁舎	支部長	1名
2月19日	三難連役員会	男女共同参画センター	支部長	1名
2月26日	難病の集い	男女共同参画センター	5名	2名
2月26日	難病支援センター設立検討委員会	男女共同参画センター	支部長	1名
3月19,20日	支部長会	名古屋市	支部長	
3月24日	三難連役員会	津県庁舎	支部長	1名

2. 平成16年度決算報告

収入の部

項 目	金 額
総 額	815,219
前年度繰越金	197,219
本部より	50,000
中日新聞より	130,000
総会参加費	28,000
弁当代	32,000
懇親会への参加費	104,000
寄付	20,000
三難連より	56,000
QOL対策費	50,000
新春交流会参加費	148,000

支出の部

事業名	項 目	金 額
	総 額	815,219
	役員会の行動費	3,540
総会	印刷費	3,647
総会	通信費	3,120
総会	弁当代	40,000
総会	ボランティア交通費	12,892
総会	会場使用量	21,210
総会	講師謝礼	78,000
総会	懇親会の食事代	103,591
	全国大会への行動費	4,500
	激励金の受け取りへの行動費	2,340
	難病支援センターの先進地視察の行動費	3,140
	三難連の総会行動費	10,210
	三難連への会費	20,000
	難病支援センターについて県会議員との懇談の行動費	1,440
	会報の印刷費	3,859
	会報の通信費	945
歩行訓練	講師謝礼	20,000
歩行訓練	ボランティア交通費	4,294
	新潟支部へのお見舞い	30,120
	東海地区リーダー研修会の行動費	62,310
	支援会員へのカレンダーの郵送料	2,030
新春交流会	ボランティア交通費	9,180
新春交流会	印刷費	2,019
新春交流会	通信費	3,040
新春交流会	会場使用量	3,050
新春交流会	講師お礼	4,000
新春交流会	食事代	141,370
	難病の集いの行動費	11,120
	パンフレットの送料	440
	旅行の案内の印刷費	3,456
	旅行の案内の郵送料	4,460
	旅行積み立て	150,000
	次年度への繰越金	51,896

3. 平成17年度事業計画（案）

日付	行事	開催場所
4月26日	難病相談員の研修会	津県庁舎
4月26日	三難連役員会	津県庁舎
5月12日	設立10周年記念旅行の説明会	アスト津
5月12日	役員会	アスト津
5月19日	難病相談員の研修会	津県庁舎
5月19日	三難連役員会	津県庁舎
5月28日	J R P Sの代議員会	名古屋市
5月29日	全国大会	名古屋市
6月6日～11日	設立10周年記念旅行	ニュージーランド
6月26日	第10回総会	松阪市福社会館
6月28日	難病相談員の研修会	津県庁舎
6月28日	三難連役員会	津県庁舎
7月3日	三難連総会	県身体障害者センター
9月26日	白杖をを使っての歩行訓練	志摩市
10月	会報発行	
11月13日	秋の交流会	四日市市
1月	新春交流会	津市
3月	役員会	

4. 平成17年度予算(案)

単位：円

収入の部

項目	金額
前年度繰越金	51,896
総会、医療講演会費	250,000
J R P S本部より交付金	50,000
交流会費	200,000
合計	551,896

支出の部

項目	金額
総務費	100,000
総会、医療講演会	250,000
交流会	150,000
予備費	51,896
合計	551,896

5. その他

①役員改選について

創立10周年 NZ 親善交流旅行日誌 宮本忠

主催： JRPS 三重支部
後援・企画： 三重オーストラリア・ニュージーランド協会
団長： 河原洋紀支部長
参加人数： 三重支部19名 協会4名 合計23名
旅行地： ニュージーランド北島オークランド～127km
ハミルトン～109km ロトルア
旅の期間： 2005年6月6日（月）～11日（土）。五泊六日。
利用国際空港： 中部国際空港（セントレア）－オークランド国際空港
利用航空機： ニュージーランド航空
航空券発券： ブルーパシフィック
（ニュージーランドエアホリデイズ）名古屋支店
宿泊： 機中一泊、テルメリゾート（ロトルア）（三泊）
メルキュール（オークランド）（一泊）

6月6日（月） 津なぎさまち14時集合：一番乗りは佐藤夫妻。打合せの後、高速船15：00出航、セントレアNZ94 18：30 全員元気に出発。

7日（火） オークランド国際空港 08：20到着。土産の‘ミニわらじ’も無事到着。増田さんと立石君調整に忙しそう。宮本が運転手さんと打ち合わせ。空港から貸し切りバス宮本由紀子さんガイド。

牧場、牧場、羊、牛。ワイカト地域は、乳製品、近郊農産物、水力発電の一大産地。マオリの地名目立つ。夜行飛行で疲れたのかな、ほとんど居眠り（?）。

森田さん岡山さんペア楽しそうに話しピカピカ。ハミルトン中心街を歩いて昼食は、サラブレッド、英国色濃厚のケンブリッジで各自初体験。山岳地帯に入るとすぐにロトルア。

15時温泉モーター テルメリゾート着。休憩後インフォメーションセンター訪問。足湯と散策。河原支部長、宮本夫妻は名誉首長アンディさん、ラドルフさんと明日の交流会の打ち合わせ。夕食バイキング。会員の山口さん一家ナピアから合流。テルメの露天風呂で温泉楽しむ。内田さん、木村さん、小川美枝さんと家族風呂でご機嫌。

8日（水） 午前8時 テルメリゾート発。ハムラナ・スプリングスガーデン、ロトルア湖の源泉や樅の木の森林浴さわやか。辻本さん熱心に案内板の写真取る。

10時15分 ファームショー：羊とドッグと河原さん乳絞り。正午 交流会。現地視覚障害者17名およびNZ 盲人協会マネージャーのアリソンさんと昼食および交流、全員英語でプレゼント。合唱でエール交換、木村さんのソプラノ響く。地元新聞記者の取材有り。（シニアセンターにて）

14時 ファカレワレワ間欠泉：温泉が突如20メートルも吹き上げた一歓声。

16時 ガバメント・ガーデンズなど。あちこち温泉泥坊主池。マオリの歴史と文化。足湯で疲れ取る。夕食、中華班とテイクアウェイ班。

9日(木) 午前9時 テルメリゾート発 9時30分着 ワイオタブ (Wai-O-tapu Thermal Wonderland) 地熱景観。レディノックス・ガイザー (Lady Knox Geyser 10:15分の人工吹き上げは不評判)。シャンパンプールやマッドプール、増田さん命名の湯の花千枚田は不思議な世界。川端京子さんあちらこちらでパチリパチリ。

昼食 オカロ河畔 (Lake OKARO) でおにぎりご飯などテルメの若旦那がお湯とともに運んでくれた。小川さんの即席味噌汁をいただきながら、鱒釣りを見る。小集会で今後の旅のあり方議論。

14時 ワイマング渓谷 (Waimangu Volcanic Valley)。フライパン湖は80度の湯気の上がる湖。ミルキーブルーの色が美しい火口湖であるインフェルノ・クレーター。伊藤、市川ペアもご満悦。

16時 ポリネシアンスパ：四つの温泉プールを電車ごっこで男女混浴。辻本健太郎君のガイド快調。買い物班はショッピング。小川明美さん買い物女王。

18時過ぎ 夕食は高値とボリュウムの洋食。帰路南十字星探索。

10日(金) 午前8時 テルメリゾート発 ニュージーランド最大の都市オークランドへ。

運転手さんの発案でパノラマ景観イーデン山をバスで登る。港、ヨット島々、火山河口そして高層ビル郡と住宅地の広がり。肥留間さん楽しみながら奥さんと皆さんのガイド。

13時30分オークランド博物館でマオリダンスショー、NZの生物や貝殻を手や指で見る。昼食は三々五々館内軽食。

15時30分 ビクトリアマーケット ミュージックショップでの多賀さんの一時間なんなんとするCD体験ショッピングは見事。

17時 メルキュールホテルチェックイン。夕食はまたまた洋食。増田さんの音頭ですばらしかった旅行に乾杯。

19時 NZRPS カミル・ガイさん、通訳のユキエさんと情報および資料交換、河原支部長、小川副支部長、宮本忠、由紀子で対応。会合出席者以外は、夜の市街探訪。会合組も仕事終了後、街に飛び出す。

11日(土) 午前6時 ホテル発 オークランド国際空港 NZ9308:45発は、濃霧発生、二時間足止め。雨窪芳美さん、おじちゃんおばちゃんからビッグなプレゼントでニコニコ。

中部国際空港 17:15 (帰国予定も二時間遅れる。) 心配無用、伊藤さんの祈りが通じ最終船に、全員、間に合い津市なぎさ町に無事帰還。出発前、現地から、今冬は異常に寒く雨天が続いているとの情報ばかり。私たちの五日間は晴天一色。帰国直後、南島のクライストチャーチは、気温零下、ヒョウが降っているとの連絡あり。神仏のご加護にも感謝感謝。

ニュージーランドで見つけた宝物 岡山 留美子

6月のニュージーランドの旅行に参加させていただいた岡山留美子です。私はこの旅行に叔母と一緒に参加しました。

私は今までは目の不自由な方と接した経験があまりなく、『旅行で叔母ちゃんを困らせたり、巧く付き添いができるのかな…』と不安な気持ちで参加しました。しかし旅行で一緒に過ごした皆さんはとっても明るくすべてに対してとっても前向きな気持ちを持っておられました。私たちが目で見て感じている事を皆さんは耳で聞くことや、匂いで感じる事や、肌で感じる事で私たちの何倍も深く強く感じ感動しておられます。そんな皆さんといると私も自分が今ここにいることや、目に映る風景や、手で触れるいろいろな感触に感動できました。

私はこの旅行に行かせて頂くまで、何でもあって当たり前で自分は何でもできるという気持ちでいました。しかし旅行で色々な経験を通して「今を過ごせるありがたさや、みんなに思われて励まされて助けられているから生きていけるんだ」ということに気づきました。仕事をする中で人が信じれなくなったり、人を見下したりする事を普通に思うようになっていた私。でもこの旅行で『人って素敵だよ。みんなといると心地いいよ。』ということ思い出させてもらえました。

今は新しい生活がスタートしましたが、この思いや皆さんと過ごした経験は今も私の中で心の支えになっています。これからもすべてに『ありがとう。』の気持ちで一生懸命過ごしていこうと思います。旅行で一緒に過ごさせていただいた皆さん、本当に本当にありがとうございました。

ニュージーランドへの旅 辻本 和仁

四月の初め、私の携帯に長男からメールが届きました。「海外旅行に行きたいって最近思っどるんで、ニュージーランドに行きたい!」「大学の講義はええのか?」と返信すると、「講義は一週間休んでもどうってことないやろ。障害のある人たちと過ごすことの方が今後の自分のためになると思うし」とのこと。この時から、ニュージーランド旅行への本格的な準備が始まったように思います。

旅行は、大変素晴らしいものであったことは言うまでもありません。そして、その旅行を通して長男が貴重な経験をしたこと、とりわけ私自身の見えにくさの状態と私への対応について彼がよくわかってくれたことは、彼の今後に限らず、私の今後の大きな支えになったと思えるのです。

また、R P 三重の皆さんや三重オーストラリア・ニュージーランド協会の方々と親しくなれたことも大変嬉しいことでした。

帰国後のR P 三重の総会で、私は理事をおおせつかりました。何もわからず、何もできないかも知れませんが、この旅行がきっかけとなり、自分の中の何かが変わったような気がします。新しい人生の旅立ちの予感かも知れません。

J R P S 三重支部との出逢い 桜井 将人

はじめまして私は三重県鈴鹿市在住の桜井将人です。年齢は33歳です
私が、RPが判明しJ R P Sに出会うまでは21歳の時両目白内障が判明し視力が落ちほとんど見えなかった左目の手術をしました。

白内障になった原因も不明で目も見にくいので落ち込みモードでした。

その後少しずつですが夜盲が進み右目の白内障も進行が進み、右目の白内障の手術をした時は夜は車の運転もできないほど夜盲が進んでました。

その時右目の白内障を手術をした眼科医の先生に夜盲の事を相談したところ
(今までいろんな眼科、病院に行きましたが夜盲は原因不明でした)

RPが判明しました(白内障の原因もRPの合併症とわかりました)

最初は白内障の原因がやっとわかり少しはすっきりした気分でしたが自分自身ネットなどで詳しく調べたり、眼科の先生に聞いてみたりしてRPの事が徐々にわかってきました。

その後私は不治の病で失明の恐怖で怯え、他にも感音性難聴やふらつきもあるので将来の仕事や生活も悩みました

そんな時三重大学病院へ診察に行きました。三重大学病院の宇治先生(J R P S 三重支部顧問)に診察してもらい、身障者手帳2級が申請ができ、宇治先生からJ R P S 三重支部長河原さんを紹介してもらい、ここで初めてJ R P S の存在を知りました

その後電話で河原さんにも相談にのってもらい、J R P S に入会しました。

そして今年の1月、新年懇談会で会合をデビューする事ができました。

三重支部の皆さんとは初めてお会いし私よりRPの進行が進み見えにくいのにめっちゃ元気で自分自身がRPで悩んでいるのがアホらしくなってくるほど元気になりました

その後愛知で行われたJ R P S 全国大会にも出席し全国から同じRPの病気の方が多数出席され目が点になっていました。

RPは遺伝の病気で3000人から4000に一人の割合でいます。だから回りには同じ病気の人は見かけません。それに見えるように見えない病気だから健常者の方はなかなか理解してもらえない時もあります。

だからJ R P S に入り、こんなにも同じ病気で悩み同じ思いで日々生活している方がこんなにも多数知り会えてびっくりした、同時にかなり元気が出ました

最近、RPはさらに進行し車の運転を辞め仕事に生活で悩み大変ですが前向きに頑張っていきたいと思います

〔点字と出会って〕 志摩支部 森田君子

私が志摩福祉会に入会したのは、平成12年の5月でした。

娘の子育ての手伝いが楽になったと思ったらもう、52才になっていました。入会してすぐ志摩支部の女性部で点字教室をしておられるとお誘いがあり、視力の低下と共に家にこもりがちだった事から、1人で外出するのは大変な勇気がいりましたが、同じ境遇の人に触れあい強い味方を得た気分でしたから早速点字用具と、教本を買い揃えて出かけたのでした。

先生を中心に、和気あいあいの中で、紙をセットする事から教わり恐る恐る点を打っていきました。まっすぐに打つ事も、力の入れ方も思いの他難しくて、裏返して見ると、紙を突き破っていたり、打ちたならなかったりいやはや 前途多難の1歩でした。その日から毎日夕食後の数時間、肩も背中もこちこちにして、やっと文章らしい物が書ける様になった頃、視障協で（俳句と川柳を募集しているから出して下さい）と、会長さんから連絡を頂き、自分の手で思ったこと浮かんだことを、書ける嬉しさに始めて作った川柳が3句、今は私の宝、励ましの句になりました。

特にこの1句（幸せも 涙も計る 計りなし）たとえ苦勞と思える物が有っても人それぞれの感じ方で、少しは楽になれたり倍にも辛く感じてしまう事もあると思うのです。

そして、この点じ50才を過ぎてから読める様になるのは、書くことの何倍も努力と時間が必要でした。あきらめる事なく続けられたのは、私の場合、先輩達との文通のおかげでした。

たった1枚の手紙を読むのに長い時間を費やし、疲れ果てて放り出したくなったことも数知れず、有りましたがそれでも続けられたのは新鮮な文章の中に優しさや励ましを感じたからです。

5年たった今でも、まだ長文を読む事は苦手ですが、毎日の生活の中にしっかりなじんでいるこの点点を、覚えられるように導いて下さった先輩方に、心から感謝です。

身の回りの物の整頓や、私の場合、趣味の唄や民謡の歌詞カードにも絶対必要な点字、書いて読めるありがたさ便利さを、まだお使いでない方にぜひお勧めしたいのです。

皆さんはいくつになられた時に網膜色素変性症と言う病気だということをお知りになられましたか。私は小学校の何年生の時だったかも忘れてしまいました。でも 5 年生になる前でした。視力に障害のあることは通学するようになるまでは全く気がつきませんでした。知らなかったのは私だけだったのかも知れません。見えていないのに見えるふりしてよく失敗もしました。親兄弟はもとより、周りの皆さんにも迷惑をかけていました。

そんなのがつらくて「死にたい!」なんて考えていた頃もありました。

私は一般社会人の中から盲人社会へ逃げ込みました。それまでは見えていないことが自分自身が悪いこと、自分自身が悪い人とも想っていましたが、盲人社会の中では見えないのが当たり前でした。

「見えない! 見えない!」と言えるようになりました。それまでは自分は厄介者だと思っていましたし、周りの人たちのお世話を受けなければ何にも出来ないとも想っていました。それが、見えない人の中で障害者仲間になったとたん生き返ったように元気になりました自分がこんなに行動的と言えれば聞こえが良いのですが、お転婆だったなんて私自身知りませんでした。盲学校へ行き、鍼灸マッサージ師の資格も得て、結婚もしました。子供も一人だけ産むことも出来ました。それなりに仕事もし、家庭生活もしています。

JRPS 会員になって更に飛躍したように思います。同じ病気仲間との出会い、親しい友達も増えました。この会の支部会議、全国会議、千葉のマクハリメッセで行われた世界大会にも参加させてもらうことができました。そして西日本の RP 仲間のメーリングリストにも参加させてもらって、いろいろな地域の活動や、いろいろな人の活躍・想いを聞かせてもらうこともできるようになりました。この 1 年の間にもいろいろな行事に参加させてもらいました。去年の 11 月には秋の交流会として三重県文化会館を中心に歩行訓練が行われ参加しました。今年 1 月 30 日には新春交流会が行われ、「RP 患者を家族に持って」と言うテーマで榊原悟さんのユーモアあふれるお話を聞かせてもらいました。それから会場を換えて昼食、懇談をしました。もっともっといろいろな人とお話もしたかったし、私の話も聞いてもらいたかったです。今度はみんながゆっくり出来るような所で集いたいと願っています。

一会員としては、このような行事参加するだけですが役員さん達は東海ブロックリーダー研修会や三難連の集い、役員会議などをひらいてあれこれ催し物の準備をしてもらっています。また支部長さんは全国会議にも参加してもらったり、スポンサーを捜してもらったり、会場づくり・講師の手配などいろいろな事をしてもらっています。

この場をおかりして感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。ありがとうございます。

今回、10 周年を祈念してニュージーランド協会の宮本忠先生のお世話によって実施できたあこがれの海外旅行・ニュージーランドへ行くことも出来ました。私が海外旅行するなんて 10 年前の私には想像も出来ないことでした。そしてパスポ

ートの有効期限がきれないうちに、いろんな所へ行ってみたいと言う夢がわいてきました。今度はホノルルマラソンに参加してみたいと思っています。エッ、エ？マラソンじゃなくウォーキングです。10キロメートルをゆっくり景色をたのしみながら、休憩所のジュースやおやつを飲み食いし、おしゃべりもしながら歩けるコースがあると聞いたからです。普段はあまり歩いていないので来年の12月までには10キロメートル歩けるようになっていたいと思っています。

今年の5月27・28日には全国大会2005RN名古屋が行われました。前夜祭では前川さんと言うアメリカで音楽の勉強をして盲導犬と共に帰国した人の作詞作曲の歌をご披露してもらいました。またおそろいの衣装で会場せましと踊ってくれるグループもありましたが、遠かったこともあり、周りの雑音にかき消されてしまい何にも聞こえませんでしたし感じることもできませんでした。せっかくの催し物もだいなし。もったいないことでした。

前夜祭の夜は三重県から参加した仲間達はシングルルーム、ツインの部屋で一晩を過ごして翌朝は大会に参列しました。この日には名古屋祭りがあり英傑行列も行われていましたので、会場へ向かう途中でその行列を見ることもできたそうです。私は従姉妹の家でのんびり泊まらせてもらっていたので残念ながら見ることはできませんでした。

会場では式典の後、三宅養三先生のRPの今昔と言うテーマでお話しを聞かせてもらいました。その後「RPをとりまく諸問題」について三人のパネラーの方々にシンポジウムが行われました。昼食は名古屋名物の天むすでした。とってもおいしかったよ。午後からは日本お笑い学会の橋本慶男先生の「難病と笑い」と言うテーマでお話しを聞かせてもらうこともできました。いつも黙って聞いているだけのお話しは船頭さんになるのですが、この時はゆっくり居眠りする暇もありませんでした。「笑う門には福来たる」と言う言葉がありますが病もお笑いには吹き飛ばされてしまうのだそうです。さあ！皆さん作り笑いでも苦笑いでも何でもかんでも笑いましょう！と言うようなお話しでした。それからは思い思いの会場でいろんな物を見たり聞いたり試したり……。私はいろんな業社さんが展示しているコーナーで珍しいものを見せてもらったり触ったりしてきました。今年愛知県で行われている愛地球博のマスコット・モリゾーのヤッケを買ってきました。新しいカラートークをみて日常生活用具給付制度品に加えられることを願いつつ帰宅しました。数名の仲間達は会場をを抜け出し、金のしゃちほこを触りに行ってました。

その翌月6月6日から5泊6日でニュージーランドへ行ってきました。

9月になって愛地球博へも連れて行ってもらってきました。豊田館、日本館、電力館、アメリカ、ベトナム、シンガポール、オーストラリア・オーストリア、スリランカなどのパビリオンにも入ってきました。いろんな所を見せてもらって来ましたがなぜかベスト5のカナダ館、イギリス館、ドイツ館、ヨルダン、マレーシアだったかなあ？そのいずれへも入館することなく帰ってきました。歩いて歩いて足裏が痛くなりましたが、10キロメートル以上は歩いたと想うから今度はホノルルへ。夢は広がります。

秋の会員交流ハイキングのご案内

自然散策と美術観賞と音楽会を楽しめる企画です。是非ご参加下さい。

期 日 平成17年11月3日 木曜

行き先 菰野町 パラミタミュージアム

湯ノ山温泉の麓、豊かな自然の中にたたずむパラミタミュージアムは、版画家池田満寿夫のコレクションを中心に展示する岡田財団の美術館です。手で触れて観賞できる作品が多くあり、午後には生の音楽演奏も聴くことができます。

美術館併設のパラミタガーデンでは、地元鈴鹿に植生する山野草が彩る里山での散策が楽しめます。

所在地 三重郡菰野町大羽根園松ヶ枝町2-1-6

近鉄湯の山線「大羽根園駅」下車。西へ300m

TEL: 0593-91-1088

行程など 10時：近鉄四日市駅湯の山線ホーム集合、
大羽根園駅まで電車利用、徒歩10分で目的地到着。

費用など 入館料（1000円）と交通費は各自負担です。

昼食について 館内には休憩室があり弁当持ち込みが可能です。

また大羽根園駅とミュージアムの間にはトロロ料理の店があります。

申し込みについて 10月25日までに佐藤 好幸 宛にお願いします。

電話番号 0594-31-4041

Email yoshiyuki5110911@yahoo.co.jp

*申し込まれた方には各地からの集合について調整します。

☆☆当日の緊急時の電話 090-7696-7499 河原

1971年8月7日 第3種郵便物認可（毎月6回 1の日・6の日発行）
2005年9月27日発行 SSKA 増刊通巻第5335号
SSKA

—◇ 編集後記 ◇—

1. 記事にもありましたが設立10周年を記念してニュージーランドに行ってきました。ニュージーランドではレティナ ニュージーランドの副会長と懇談することもできました。がしかし、ニュージーランドではあまりメールが使われていないようです。
2. 今年の4月から三重県難病相談支援センターができました。
電話番号は059-233-5035です。
3. メールをされている方で、まだ支部長までメールアドレスを連絡していただいている方は、是非連絡をお願いします。メールだと経費と時間が大幅に短縮されますので、ご協力をお願いします。
4. 今年の秋の交流会に、是非参加してください。

発行人：障害者団体定期刊行物協会
東京都世田谷区砧6-26-21

編集：RP三重会報編集部 河原洋紀
〒515-0847
松阪市岩内町614
(電話・FAX) 0598-58-2664
(e-mail) hk2664@aqua.ocn.ne.jp

定価200円